



明治6年1月25日開校152年目

谷塚小だより

学校教育目標

やさしく

よく

かしこく

令和6年11月1日
草加市立谷塚小学校
TEL 925-2422
児童数 626名

校長 菅野光三

『β（ベータ）メンタリティ』と『固定観念』

先日、「神山まるごと高等専門学校」の事務局長である松坂孝紀さんの講演を聞く機会がありました。「神山まるごと高等専門学校（以下神山まるごと高専）」は、徳島県にある人口約4千人の神山町に昨年4月に開校した高等専門学校です。校歌の作詞がUAさんで、作曲が坂本龍一さんということでマスコミに取り上げられました。その他、全寮制であることや学費の実質無償化を目指していることも話題になりました。そのため、全国の高等専門学校の平均倍率が約1.7倍なのに対して、「神山まるごと高専」の倍率は10倍以上でした。その講演会で心に響いたことのなかで2つ紹介します。

一つ目は、「β（ベータ）メンタリティ」

『欠点のない完成形を最初から求めるのではなく、未完成のβ版を次から次へとつくりだし、あらゆる角度から検証し、想像以上に良くしていくこと』というビジョンです。そして、失敗なんてないという考えです。もし、やったことが間違えていたら戻ればよく、その間違えた道によって新しい道が見つかるかもしれないと考えれば、間違えた道を進んだことが失敗だったのでなく、学びの一つだったと考えられます。私自身も谷塚小学校の校長として様々な試みをしてきました。やってよかったと思うこと（例えば、リーバーの導入）もあれば、そうでないこと（例えば、チャージタイム）もありました。子どもたちや保護者、教職員から意見を聞き、継続させた方が良いものと止めても良いものを明確にしてより良い学校経営を進めてきました。

二つ目は、「固定観念」

『私たち大人の固定観念（常識）で、子どもたちの可能性を決めていないか。できない、やらない理由を「〇〇だから無理」としていないか。そうではなく「どうしたらできるか。」子どもにできる自信を持たせることが大切』という考えです。「子どもたちには、アイデアがない。」「失敗したら立ち直れない。」という固定観念を持つのではなく、「子どもたちの力を信じる。」というプラスの固定観念を持つことで成長させることができると考えます。

子どもたちが失敗しないように、失敗させないようにと考えて、先回りの準備をすることが多く、良かれと思って行き過ぎた支援をしていたのではないかと考えさせられました。子どもたちは、「うまくいかないことで、悩んで解決策を見つけ出すことがあります。繰り返し挑戦して上手くできた喜びを味わうことができます。」子どもたちの力を信じていきましょう。